

平成27年度 事務事業評価シート

事業概要	事務事業名		放課後子ども教室事業							担当部		こども未来部			
	会計区分		一般会計			事業類型		実施計画事業以外		担当課		こども政策課			
	事業期間		平成20年度			～			平成31年度以降			担当係		青少年育成係	
	総合計画分野別計画	主目的	3 教育・子育て 13 子育て支援 4 健全な青少年を地域で育てます												
		副目的	実施計画対象												
	予算区分		款	10	項	5	目	4	大	4	中	2			
	根拠法令・個別計画		放課後子どもプラン、第3次小牧市生涯学習推進計画												
	目的 (対象をどのような状態にするのか)		地域住民の協力を得て、小学校施設を活用し、放課後の子どもたちに様々な、学習・体験・交流活動を提供する。												
	内容 (手段)		◆26年度実施内容 ・各小学校に地域コーディネーター、安全管理指導員を配置し、学校、地域との連携をとりながら放課後の事業を実施する。(H20年度から始まった事業:国・県各1／3の補助事業) 開催回数 317回、参加児童数 427人、学校地域コーディネーター 24人、安全管理指導員 122人 ・学校地域コーディネーター活動実績 642回(16校のコーディネーターの活動に伴う謝礼 1回3,000円) ・安全管理指導員活動実績 5,445時間(16校の安全管理指導員の活動に伴う謝礼 1時間1,000円) ・本庄小学校児童クラブ室を利用し、同校区内の児童が参加する土曜日の教育活動「わくわく土曜クラブ」を実施した。地域住民を講師に迎えての体験講座14講座に、135人の児童が参加した。(保険加入は82人、木曜日の放課後子ども教室参加者含) 職員は下記の事務を行う。 ・教室毎に参加者保護者説明会を開催し、事業概要や注意事項等の説明を行った。 ・各教室を年2回程度巡回し、教室の運営方法の把握や指導員からの情報収集を行った。 ・円滑な教室運営のため、研修会2回及び推進会議の計3回を開催した。 ◆26年度直接経費の内訳 学校地域コーディネーター謝礼等(7,518千円) 消耗品費等(336千円) その他、参加児童保険料等(724千円) ◆27年度直接経費の内訳 学校地域コーディネーター謝礼等(13,396千円) 消耗品費等(628千円) その他、参加児童保険料等(1,072千円)												
	受益者負担		有		保険料、材料費										

コスト				単位	H24決算額	H25決算額	H26決算額	H27予算額
	費用	直接経費		千円	9,111	8,351	8,578	15,096
		正職員	従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50
			人件費	千円	2,630	2,630	2,630	2,630
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	11,741	10,981	11,208	17,726
		対前年比		%		93.5	102.0	158.1
	財源	一般財源		千円	6,556	5,806	6,570	12,515
		国・県支出金		千円	4,826	4,845	4,232	4,763
		その他財源		千円	359	330	406	448

業 績	活動指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	学校地域コーディネーター	校	目標	16	16	16	16
			実績	25	26	24	
	安全管理指導員数	人	目標	64	64	64	64
			実績	130	125	122	
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H24	H25	H26	H27
	実施小学校数	校	目標	16	16	16	16
			実績	15	16	16	
放課後子ども教室参加児童数	人	目標	544	480	480	480	
		実績	448	413	426		

事業の自己評価	平成26年度の実施結果	事業の達成状況	学校地域コーディネーター、安全管理指導員数は、事業の定着化と共に、目標達成している。しかし、空き教室の減少や、より安全に児童の受け入れを行うため、定員を設ける教室が増え、参加児童数は減少している。	
		事業実施における課題	地域住民によるボランティアでの運営のため、指導員の確保や、特別に配慮が必要な児童への対応など、学校の協力が不可欠である。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	保護者の認知度も高く、指導員も地域のボランティアである。事業の廃止等によって、学校と地域の連携を図る機会の減少につながる。	
	平成27年度の改善内容	27年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	各教室において、特色ある活動が実施されており、指導員への支援は継続して実施する。また、特別に配慮が必要な児童の受け入れもあり、青少年育成指導員の巡回など、現場が落ち着いて児童を受け入れる体制づくりに引き続き努める。児童クラブの受入れ年齢の拡大の状況を踏まえて、教室運営について検討していく。	
	平成28年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	学校と地域の連携により運営し、児童に学びや交流の機会を提供するものであるため、現状の実施方法を継続する。	
		28年度以降の改善案	引き続き、児童クラブの受け入れ年齢拡大が行われることから、その状況を踏まえて放課後子ども教室の運営方法及び、両者の連携について、検討を行います。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 保護者にも参加を促すことでかえって参加児童数が減少傾向にあると考えられるため、改めて運営方法や事業のあり方について見直しを行うこと。 児童クラブの対象学年の拡大に合わせて、本事業の必要性やあり方を検討されたい。